

Title	技術立脚型多角化企業の研究開発マネジメント - 基礎研究成果の評価指標設定 -
Sub Title	
Author	石田正彦(Ishida, Masahiko) 伏見多美雄
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1989
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1989年度経営学 第663号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001989-0663">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001989-0663</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

## 技術立脚型多角化企業の研究開発マネジメント — 基礎研究成果の評価指標設定 —

昨今、企業が多角化を推し進めて行く上で、他企業との差別化を図るための研究開発の役割が従来にも増して大きなウエートを占めるようになって来ている。独創的な技術なしでは、最早技術立脚型の多角化を行なっていくのは不可能と言っても過言ではない。

本論文においては、研究開発を基礎研究と開発研究とに分け、この2つは全く異なる性質のものであると定義した上で、そのマネジメントスタイルも自ずと異なったものであるべきであるという立場をとっている。そうした上で、技術マネジメントの中では特にマネジメントの介在しにくい基礎研究のそれにスポットを当てて考察を加えたものである。

まず、ある企業の事例及び10数社の調査をもとに、現在研究開発マネジメントにおいていかなる問題が生じているかを明確にし、研究開発マネジメント全般における問題の構造化を行なった。そして研究開発マネジメントを円滑に行なうことを妨げている阻害要因の抽出を試みた。

その阻害要因の中で、研究成果を評価するための指標が設定されていないことによる悪影響が、技術立脚型の多角化を進めて行く上で特に大きなものとなっていることが判った。

ここで言う研究成果とは、技術蓄積度とか技術の波及効果といった、いわゆる“見えざる資産”のことを指し、これまではこの成果を評価するための明確な指標が無かったことによる様々な問題が起きていた。そこで、これらの問題を解決し、理想的な技術マネジメントに一步でも近づけるために、研究成果の評価を行うための指標設定を試みたものである。